

## 特集3 / 幸福研究の学際的展開——ポジティブ心理学と政治経済学

### 巻頭言

## 特集にあたって

千葉大学大学院人文社会科学研究所教授

小林 正弥

幸福に関する公共研究は、近年に急速に展開しつつある幸福研究やポジティブ心理学を踏まえて、個人の幸福とともに公共世界との関係における公共的幸福を考察しようというものである。「幸福についての公共研究——千葉大学公共学会講演会」（第12巻第1号、2016年3月、特集1）は、新しく開始されたこの研究について学生向きの講演を収録したものだ。そこで本特集では、特にポジティブ心理学と政治経済学との関係に力点を置いて、学術的研究や学際的研究を掲載する。

前野隆司氏（慶応義塾大学システムマネジメント研究科）は、日本における幸福学の第一人者であり、その幸福研究の成果をわかりやすく説明していただいた。その他の4人は千葉大学の公共研究プロジェクトの構成員である。小林正弥（千葉大学）はコミュニタリアニズムなどの公共哲学とポジティブ心理学の関係を考察し、石戸光（千葉大学法政経済学部）はポジティブ心理学と経済学の視点からコミュニティーレベルの関係性を論じ、小川哲生（千葉大学法政経済学部）は開発途上国における良き状態（ウェルビーイング）の再建について議論した。広井良典（京都大学こころの未来研究センター、千葉大学法政経済学部客員教授）は、幸福をめぐる理念と公共政策の関係を議論し、幸福政策という新しいアイデアを提起している。

なお本特集における千葉大学の公共研究は、科学研究費助成事業 基盤研究(C)「コミュニタリアニズムと幸福研究——政治経済学における理論的・実証的展開」（研究代表者 小林正弥）の成果である。政治経済に関するこのプロジェクトに基づき、ポジティブ心理学や幸福研究などと連携して学際的研究が

展開されている。そのような学際的ネットワークを基礎として、日本ポジティブサイコロジー医学会で学際的なシンポジウムが開催された。前野論考や小林論考は2015年の第4回学術集会におけるシンポジウム「ポジティブサイコロジーの学際的展開——健やかで幸せな人生と社会に向けて」(於 慶應義塾大学三田キャンパス、座長 小林正弥)における発表、広井論考は2016年の第5回学術集会におけるシンポジウム「ポジティブで幸せな社会に向けて」(於 龍谷大学、座長 小林正弥)における発表を基礎にしている。